

会 議 議 事 録

1 会議名	令和4年度長岡市市民協働推進審議会
2 開催日時	令和5年2月10日（金曜日） 午前10時から午前11時30分まで
3 開催場所	アオーレ長岡東棟3階 301会議室 (ZoomによるWeb会議併用)
4 出席者名	(委員) 板垣委員 恩田委員 上村委員 小林委員 佐竹委員 田中委員 土田委員 星野委員 綿貫委員 (事務局) 伊藤市民協働推進部長 五十嵐市民協働課長 勝沼市民協働課長補佐 仙海市民協働課市民協働係長 大平市民協働課コミュニティ推進係長 永井市民協働課アオーレ交流係長 中村市民協働課主査 内山市民協働課主事 星野市民協働課主事 (サポート) 市民協働センタースタッフ
5 欠席者名	渡辺委員
6 議題	(1) 新型コロナウイルス禍 3年目の現状 (2) 企業連携とSDGsの推進 (3) 市民活動団体への支援 (4) 次期正副会長の選任について
7 審議結果の概要	・議題(1)～(3)について、事務局より説明があり、委員による意見交換が行われた。 ・議題(4)について、委員の互選により、次期会長に上村委員、次期副会長に恩田委員が選任された。
8 審議の内容	
	1 開会 (市民協働推進部長あいさつ) (新委員自己紹介)

<p>会長</p>	<p>2 議事</p> <p>それでは、議題（1）新型コロナウイルス禍3年目の現状について事務局から説明をお願いします。</p>
<p>事務局</p>	<p>（資料1-1～1-5に基づき説明）</p>
<p>会長</p>	<p>ご意見、ご質問がありましたらお願いします。</p>
<p>委員</p>	<p>すばらしい市民活動の報告をいただきました。コロナ禍で市民活動団体は、活動を継続すること、もしくは新たな活動をスタートさせるにあたりご苦労されたと思いますが、スタッフの方や行政のサポートにより、コロナウイルスと共存する新たな時代の市民活動を支えられたのではないかと感じます。5月8日以降は新型コロナウイルス感染症の分類が5類になり、今までとは少し違う活動がさらに広がっていくことを期待していますので、流れを汲み、サポート側も新しい提案や協力ができると思います。</p>
<p>委員</p>	<p>コロナ禍でも、皆さんがこれだけ動いていたこと、市民協働センターの考え方や動き方を変えていただいた結果が出たのだと思います。今回の審議会のように開催の形も変わり、動きがスムーズになってきたと思います。アフターコロナの状況においても、順応していただけましたら素晴らしいと思います。</p>
<p>委員</p>	<p>新型コロナウイルスの分類が5類になり、これから経済的にも市民活動的にも活動が再開していくと思います。資料の「新たなイノベーション」にもあるように、コロナ禍で活動内容や方法など変化したものもあります。しかし、良い所は、コロナ収束後も残っていくと思います。例えば、リモート会議は、全国どこにいる方のお話も聞くことができ、継続していけるものです。すべてが悪いというわけではなく、我々も順応していきたいと思います。</p>
<p>委員</p>	<p>私たちは、コロナ前のステージ、コロナ中のステージ、そしてコロナ後のステージという3つのステージを経験していると思います。この経験を生かしながら、臨機応変に対応していかなければいけないと思っています。</p>
<p>委員</p>	<p>コロナ禍の弊害の部分をお話します。地域の活動は、今年度再開しつつありますが、この3年間中止や不参加が多かったことから、活動者が</p>

	<p>存在意義を見失ったり、モチベーションを維持できなくなっている部分を感じています。地域のお祭りや学校の行事などは、実施しないことが楽になり、再開することが面倒という雰囲気が非常に怖いです。今後、市民活動をどのようにコロナ前に戻していくかが課題になると思います。流れが悪くならないよう、皆が気持ちを高めていける動きをしたいと思います。</p>
<p>会長</p>	<p>楽なことを覚えて、手抜きができてしまう部分もあります。新しいステージに向けて非常に重要な課題を指摘していただきました。</p> <p>その他の委員、いかがでしょうか。</p>
<p>委員</p>	<p>資料1-4の中で、相談件数が2020年だけ増えており、2021年が減っていますが、この要因は分かりますか。</p>
<p>事務局</p>	<p>2020年の相談件数の中には、この年度に実施した新型コロナウイルス感染症にまけない市民活動団体奨励金の相談が含まれており、その件数が非常に多かったため、1,747件になりました。これを除いた通常の相談件数は、585件です。</p>
<p>委員</p>	<p>ありがとうございます。</p> <p>産業界においても、コロナ禍で様々なことが変化していく中、活動者の存在意義や気持ちを盛り上げていくことは大変難しいと感じます。ただ、変わっていかなくてはいけない部分もあると思うので、前向きに取り組むことが必要だと考えています。</p>
<p>委員</p>	<p>先日、雪まつりを開催し、地域の方々に喜んでいただきました。まずはできることから頑張っていこうというのが、栃尾地域の課題です。ご協力よろしくお願いします。</p>
<p>委員</p>	<p>資料1-1の中で、令和3年度が20事業、今年度は13事業とありますが、市民活動フェスタが3年ぶりに対面で開催される中、補助金の件数自体が減っている理由はありますか。</p>
<p>事務局</p>	<p>活動自体が戻ってきてないことが、一つの要因としてはあるのかもしれませんが、併せて、行政の補助金を活用いただく団体もまだまだ多いのですが、そこから一歩進み、団体が、お金の支援から徐々に違うものを求めている傾向もあると考えられます。また、年度間でのばらつきもあると捉えています。補助金だけではない支援のあり方について委員の皆様</p>

<p>会長</p>	<p>さんからご意見をいただきたいと思っております。</p> <p>市民協働条例制定から10年が過ぎて、我々がこの10年間で見てきたものと違った動きが出始めるタイミングで、コロナ禍となり、色々な意味で次のステージに入りかかっていると思います。</p> <p>大きく世の中が変わる時には、今までどおりにいかない部分や、弊害が出てきますが、新しいプレーヤーが見えてきたり、フェーズ変わってきたな、ステージが上がってきたなという雰囲気も感じます。報道でも3月13日には、部分的にマスクを緩和していく話も出ていますし、次のステージに向かうタイミングに来たと思っています。</p> <p>一方で、市民活動フェスタが対面で開催でき、2,000人も来てくださって、変わってはいけないものもあると思います。</p> <p>団体からの相談内容の変化についても聞かせていただき、次に向かうべき方向を皆さんからご意見いただきたいと思います。</p> <p>人間は、困難に直面して制約が多くあると工夫をするものです。リモートせざるを得ないという制約の中で、リモートの良さや新しい可能性を見つけています。この市民協働審議会もオンラインで開催し、遠方の方が現地から参加でき、すばらしい時代だと思います。ただ、どこかのタイミングで直接交流はしましょう。</p> <p>リモート会議、オンライン、SNSなどの活用にあたり、市民活動団体や市民協働センターもご苦労されたと思いますが、機動的に柔軟に取り組んでいただいたと思いました。</p> <p>それでは、議題の(2)企業連携とSDGsの推進について事務局から説明をお願いします。</p>
<p>事務局</p>	<p>(資料2-1～2-5に基づき説明)</p>
<p>会長</p>	<p>ありがとうございました。</p> <p>ご意見、ご質問がありましたらお願いします。</p>
<p>委員</p>	<p>資料の2-4の、団体とのマッチングを提案し、変化や効果があった事例を教えてください。</p>
<p>事務局 (協働センター)</p>	<p>協働センターを知ってもらえたことが一番の利益だと思っています。</p> <p>また、企業の方も取材を受けることで、自分たちがこんなSDGsのゴールを目指していたと気づいたり、もうちょっと頑張ろうと思ってもらえたりと、相乗効果があったと思います。</p>

会長	取材をすることで、お互い気づくことがあり、マッチングが生まれてきたという解釈でよろしいでしょうか。
事務局 (協働センター)	はい。
会長	<p>取材をする中で、企業が取り組みたいことと、SDGsや市民活動が関係する部分があるという企業側の気づきや反応もあったと思うんですね。また、同時に、取材をしている市民協働センター側の広報をやっていたのかもしれない気がします。</p> <p>その他いかがでしょうか。</p>
委員	<p>三島で竹灯りという里山保全の事業をしています。三島の企業から地域貢献したいという話がありました。今までなら、募金に協力するだけでしたが、先方から提案があり、現在、会社に在籍する4名のベトナムの方が竹灯りのボランティアとして活躍してくれています。ベトナムの春巻きを教えてもらったりして、地域で国際交流のような形もできました。</p> <p>SDGsについて考えている企業は多いと思います。ただ、具体的な動き方が分からない。また、地元の方もボランティアなどを通して交流したいけれど実現にはつながらない。そこを上手く教えてあげられたら、素晴らしいものができると思います。</p>
会長	<p>寄付を募るだけでなく、人材や企業のミッションにマッチするような活動があれば、企業にも利点があり、マッチングにつながりますよね。</p> <p>先方からアプローチいただいた話や、市民協働センター長の話で協働センターが取材に行ったことが結果的にセンターの営業になっているということも、このあたりでわかるかなと思います。</p> <p>その他いかがでしょうか。</p>
委員	<p>資料に、企業との連携の中でSDGsの目標の質の高い教育をみんなにとありますが、企業や参加した団体について聞かせてください。</p> <p>私の住む支所地域は、学校が合併するなど教育部分の地域格差が広がりがつあり、若い世代や子育て世代の人たちが、地域から離れていくことにつながると感じています。</p> <p>企業がやられていること、助けてもらえることがあれば内容をお聞きしたいのでお願いします。</p>

会長	<p>企業の活動で、わかることがあればぜひお願いします。</p>
事務局 (協働センター)	<p>資料の企業は、随分前から海外に中学生を派遣しています。子ども食堂への寄付を続けている企業もあります。</p> <p>寺泊に限らず小国も本当に人口が減って、高校に入ると引っ越してしまう現状なので、私たちも地域に入りながら何か良い方法はないかと考えています。企業とのマッチングについても、難しい面はありますが、頑張っていきたいと思います。</p>
会長	<p>委員が期待される活動は、なかなかないようですが、地域ごとの教育格差は、大きな課題になってきます。この課題に取り組む団体や企業、あるいは連携したジョイントベンチャーなどから色んな取り組みが出てくるといいのではないのでしょうか。</p> <p>その他、いかがでしょうか。</p>
委員	<p>らこつての企業の紹介は、個人的には評価をしています。紹介をされた後、企業側に市民からの反応の変化があったこと、効果的だったこと、マイナスだったことなどお聞かせください。</p> <p>企業だけでなく、学校、社会福祉法人など色々な団体を紹介してもらえると、やり方や手段などヒントが出てくると思いました。</p>
会長	<p>まず、らこつて掲載後のアフターフォローについてお願いします。</p>
事務局 (協働センター)	<p>企業には、取り組みの広報・PRに繋がっている点でご満足いただいていると思います。その後、一度つながった企業には、毎月らこつてを送り、市民活動に少しでも関心を持っていただくことでアクションがある人もいます。企業の担当者から講座のアーカイブ配信の申込も増えてきました。少しずつこちらに歩み寄っていただいている方がいるのではと思います。</p> <p>市民活動と同じで、取り組みは企業の数だけあり、多様な事例が広がるので、マッチングや相談時には、団体ごとの事例を紹介するなど多様な関わり方を示せていると思います。</p> <p>学校の先生からも相談が来るようになっていて、協働の精神でお互いの立場を尊重していくことは、今後コーディネーターとして大事な点だと思っています。</p>
会長	<p>取材に行った企業には、らこつてをずっと送り続けるのですか。</p>

事務局 (協働センター)	そうです。
会長	<p>会員になってもらうのはいかがでしょう。会費は、企業からすれば広報宣伝費としてはわずかです。また、協働センターが郵送費を負担しているという矛盾感もあります。取材に行くたびに会員や企業との繋がりが増えて、その企業にらこつてが届くことによって情報が届いて、色々な新しい繋がりをまた作っていくというすごく良い循環になる気がします。1社1社本当にご苦労されて取材に行くことで、これから成果が増えていくと思います。すごく良い取り組みなので、ぜひやっていただきたいと思います。</p>
委員	<p>いつもNPO法人にらこつてを送っていただいています。会員も喜んでおりますが、無料で送ってもらうと心苦しいなあと感じておりますので、ぜひNPO法人に言うてくださればと思っております。</p>
会長	<p>ありがとうございます。 またお気づきのことあれば、ご発言ください。 議題(3) 市民活動団体への支援について説明をお願いします。</p>
事務局	(資料3-1～3-4に基づき説明)
会長	ありがとうございます。ご自由にご発言ください。
委員	<p>活動に関しては、言葉として適切ではないかもしれませんが、コロナ禍で淘汰された部分もあるのかなと思います。必要な団体は残っていきます。補助事業の数は、時代の流れとともに変化するものなので、大きな問題ではないと思います。これから市民活動がどういうふうに変化していくかを楽しみにしています。</p> <p>資金面では、特に問題がないという回答があったとのことですが、物価が高騰しています。車のガソリンの単価など補助対象経費として認められる予算の見直しをすると、団体はとても助かると思いました。</p>
会長	<p>委員が補助金の審査をされていて、最近の傾向や変化について感じることを共有していただきたいと思いますが、いかがでしょうか。事務局でも結構です。</p>
事務局	補助金に特化したことではないのですが、コロナ禍で、貧困や子ども

<p>会長</p>	<p>への支援など困っていらっしゃるところにスポットを当てた活動が出てきていると感じています。</p> <p>イベント系のものは、ある程度は回復してくると思います、以前のような盛り上がりを見せるかどうかは様子を見てですね。ネガティブな問題をどう解決していくかというテーマも非常に多いとのこと。ほかに、補助金を審査されて何か気がつかれることがありますか。</p>
<p>委員</p>	<p>徐々に活動に元気が出てきていると感じます。以前は、アルコール消毒やマスク、換気についての話も多く上がっていましたが、今はオンラインであっても積極的に皆さんと関わりをもっていこうという活動が増えてきていると感じています。</p>
<p>会長</p>	<p>淘汰という言葉は適切ではないかもしれませんが、プレイヤーが入れ替わって新しい動きが出てくることを期待している部分もあります。その他いかがでしょうか。</p>
<p>委員</p>	<p>ボランティアや地域で活動する人の後継者問題があります。昨年からは、コミュニティセンターからの紹介で地域の学びコーディネーターに参加しています。私のような人が今後地域により関わっていくかと思いますが、住んでいる過疎地域で市民活動に興味がある人を見つけるのは非常に難しいです。</p> <p>アンケートの中に、人材育成については出てきませんでしたが、人を育てていくことについて、アドバイスいただきたいと思います。</p>
<p>委員</p>	<p>資料3-2について、団体のニーズを把握するのはすごく大事なことだと感じました。特に、広報集客・情報発信に関するニーズが高いとのことですが、広報や情報発信をする人が必要なのか、ノウハウを知って自分たちで取り組みたいということなのか詳細を教えてください。</p>
<p>事務局 (協働センター)</p>	<p>どちらも求められています。この10年で一番変わったのは、団体がお金をかけてチラシを作らずとも、新しいメディアを使って自力で情報発信ができるようになったことです。講座でも、資金調達の内容も集客はありますが、情報発信やチラシづくりの講座は人気が高いです。</p> <p>ただ、情報を広めたり拡散してくれるような存在も同時に求められています。協働センターとしては、ノウハウの部分と広げる役割の両方が期待されていると思っています。</p>

<p>会長</p>	<p>その通りだと思います。以前は、チラシやポスターの印刷費が多くを占めていました。でも今の時代、SNSで情報があつという間にダイレクトに届き、広報費の多くは必要ではなくなっています。</p> <p>また、先生をお呼びするための旅費も、リモートでお願いすると謝金だけで済むようになっていきます。</p> <p>だから、市民活動の補助金の内訳の変化を見て、補助金の仕組み自体も適用していく必要があるのかなと思います。</p> <p>先ほどの後継者問題も難しいなと思います。どこも人口減少や高齢化の中で後継者がいなくて困っています。山古志では、先週デジタル村民が実際に山古志に来て、屋根の雪下ろしをしてくれました。バーチャルだけれどリアルにつながっています。プレーヤーをいかに作っていくかを考えると、交流人口、関係人口をさらに一歩進めたバーチャル人口のような人がいると、ものすごいポテンシャルとなり、空間を超越した仲間が増やせる時代になるのかなと思いました。</p> <p>補助金の件数が減ったことは論点ではなくて、質を読み解いていかなくてはいけないなと思います。我々が市民活動をサポートするにあたり、今までの10年間はスタートアップとして資金面を支援してきました。また、10年間の中で、相談で解決できる問題も多くあつたし、相談できる窓口の価値が広く認識されるようになったことも成長です。</p> <p>これからは、資金、相談、マッチングの支援の三本柱の中で、マッチングが重要なポイントになってくると思います。特に企業のCSRとか企業との連携は重要な意味を持つてくると思います。その上で、資金が必要になれば、必然的に資金的なサポートの制度の話になると思います。</p> <p>その他いかがでしょうか。現場の方の感覚も伺えればと思いますのでお願いします。</p>
<p>事務局 (協働センター)</p>	<p>らこつてのSDGsの企画で取り上げる会社の選定については、担当者がフェイスブックやSNSを駆使して調べます。ただ、小さい企業の情報をキャッチするのはなかなか難しく、取り上げるのは大きい企業になりがちです。企業の情報について、商工会議所や委員の皆さんにご協力いただきたいと思いますのでよろしくお願いします</p>
<p>委員</p>	<p>ご意見頂戴しましてありがとうございます。</p> <p>SDGsについては、SDGsの取り組みなのか、SDGsとしてPRをしていいのか判断できない企業も多いかもしれません。</p> <p>ただ、将来的には企業としてSDGsに取り組む必要が求められるので、把握できる範囲で情報がありましたら、お返ししたいと思うのでよ</p>

<p>会長</p>	<p>ろしくお願いします。</p> <p>1社ずつ紹介いただければ十分かと思しますので、よろしくお願いします。</p> <p>市役所の方でも何かあれば、お願いします。</p>
<p>事務局</p>	<p>コロナ禍で異動して、日頃補助金を担当しています。相談対応でも、閉塞感がありましたが、近頃は前向きな印象があり、市民活動のフェーズが変わっていくのかなと感じます。</p> <p>また、役所の把握していないところでも、協働センターへの相談が非常に増えていて、嬉しく思っています。</p>
<p>事務局 (協働センター)</p>	<p>デジタル村民など新世代の人たちは、広報についてもノウハウをお伝えすればすぐに取り組みたり、協働センターが仲介をしなくても、若者しごと機構と繋がっていたりとすごい力を持っていると感じます。</p> <p>ただ、フェイストゥーフェイスで繋がって伝わる部分もあると思っています。高齢の方がチラシを作りたい時には、文字は打てるので、フォーマットを用意すれば自身で作成できるといったように、その人ができる範囲のことを見定めて提供することも大切です。</p> <p>後継者の担い手については、社協のボランティアグループの方々70から80代ぐらいになっておられるようで、次の展開が難しい現状です。マッチングリストを活用して、ボランティアの方や団体が培ってきたノウハウやスキルを、次に続く団体が引き継いで新しい活動に繋がるようなマッチングを個人的に心がけています。</p> <p>団体は、協働センターに情報を求めているのかなと思うので、引き出しを広くもつという意味で、審議会の皆さんから色々な問題や情報をいただきたいと思っています。</p>
<p>会長</p>	<p>デジタルに対応しきれない年代の方々も重要な市民活動のプレーヤーですので、この方々のサポートは丁寧に続けていかなくてははいけない。全くおっしゃる通りだと思います。置いていかれた感を持ってしまうと活動が停滞してしまう部分もあります。</p> <p>そこにデジタル世代をマッチングできないかなと今聞いていました。雪かき未経験の若者を高齢者の多い集落のボランティアに来てもらった雪かき道場という事例が成功しています。他にも、企業と市民活動団体や市民活動団体同士のマッチングなども可能性としてはあるのかなと思います。</p> <p>栃尾の各集落では、社協がリーダーシップをとって、500人ほどのボ</p>

	<p>ランティアで高齢者宅の除雪をしています。ボランティアも高齢化していて、集落によっては民生委員も選べない状況です。補助金のために、共助組織をつくったような現実もある中で、精力的な若い消防団の団員のボランティアがいます。そういう方を、社協につないでマッチングするトライアルも始まっています。これからを考えると、今まで閉じていた部分を開いてみると新しいプレーヤーとか、外からの風が吹いてくる、そんな可能性もこれから考えていかななくてはいけないと思っています。</p>
委員	<p>どんな人でも活躍できる場があると思うので、それを少しでも見つけて、負担にならない程度に関わっていくことも大事なのかなと思います。</p>
会長	<p>市民活動は、皆さんがやれることをやれる範囲で持ち寄ってくるのかと思います。</p> <p>その他、皆さんいかがでしょうか。</p>
委員	<p>今日の感想になりますが、すごく前向きになれました。地域を一人で考えていると行き詰ったり、閉塞感に押しつぶされそうになることもあります。今回、自分の気持ちお伝えでき、色々な情報もいただけて非常にありがたかったです。</p>
会長	<p>前向きなコメントいただき、ありがとうございました。</p> <p>その他いかがでしょうか。</p>
委員	<p>人材不足は、本当にひしひしと感じています。私たちNPO法人も高齢化ですが、生きがいを持って参加していて、平均年齢80歳ぐらいですが、生き生きと若者に負けずに頑張っております。また、今は、次の方を育成するようにも頑張っております。</p> <p>本日は、ありがとうございました。</p>
会長	<p>すばらしいですね。ありがとうございました。</p> <p>続きまして議題（4）次期正副会長の選任について事務局から説明をお願いします。</p>
事務局	<p>審議会規則の規定により、会長及び副会長は委員の互選により定めることとされています。つきましては、令和5年4月1日からの会長副会長の選出についてご審議をお願いしたいと思います。</p>

<p>会長</p>	<p>なお、綿貫副会長、土田委員のお2人が、今期の任期満了をもって委員をご退任のご意向です。</p> <p>ご意見は、ありますでしょうか。</p> <p>この長岡市市民協働推進審議会の委員は、任期の2年ごとに決めていきます。今年がその2年にあたりますので、来年度の委員を決定しますが、市の意向としては、皆さんに継続していただきたいとのことです。</p> <p>土田委員は、退任とのことですが、後任の方はまだ決まっていないということでしょうか。</p>
<p>委員</p>	<p>NPO法人としての後任は決まっていますが、審議会については、決定していません。</p>
<p>会長</p>	<p>綿貫委員もご退任ということで、後任については決まっていないということです。他の方は、継続をお願いしている状況です。</p> <p>規則によると、委員の互選により、次の会長及び副会長を決めるということなので、本来であれば新年度の委員が決まって、その中で決定するのが筋ですが、審議会が1年に1度の開催のため、今いらっしゃる委員の皆様のご意見を伺って、次期正副会長を決めたいと思います。</p> <p>来年の会長副会長についてご意見のある方、ご発言をお願いします。</p>
<p>委員</p>	<p>綿貫副会長、土田委員本当にお疲れ様でした。長い間一緒に活動させていただき、色々勉強させてもらいました。</p> <p>会長は、上村先生にそのまま引き続きお願いしたいと思います。</p> <p>副会長には、恩田委員をご推薦をさせていただきます。</p>
<p>会長</p>	<p>会長は引き続き私、副会長には長年市民協働で貢献していただいている恩田委員をお願いしてはどうかということですが、ご異議はございませんでしょうか。</p> <p>(異議なし)</p> <p>それでは、会長は私がもう1期続けさせていただきたいと思います。副会長は、恩田委員よろしくお願いします。</p>
<p>委員</p>	<p>かしこまりました。</p>
<p>会長</p>	<p>それでは、議事は終了したいと思います。議事進行にご協力いただきましてありがとうございました。</p>

	<p>3 閉会 (次期正副会長挨拶) (退任委員挨拶)</p>
<p>(出席委員の署名欄) 省略</p>	
<p>9 会議資料</p> <ul style="list-style-type: none"> ・資料 1-1～1-5 新型コロナウイルス禍 3年目の現状 ・資料 2-1～2-5 企業連携とSDGsの推進 ・資料 3-1～3-4 市民活動団体への支援 	